



2. 栗国村観光振興計画

(1) 基本的な考え方

1) 目標

栗国村が村づくりで展望するのは、

「自然・ひと・暮らし ふくらしやる栗国 てるくふあ島」です。

栗国村が観光振興で展望するのも、また、

「ふくらしやる栗国 てるくふあ島」でありつづけることです。

「ふくらしやる栗国 てるくふあ島」は、栗国の村民にとって、

「悠久の自然 と 深遠な歴史 につつまれた いのりの島」です。

「ふくらしやる栗国 てるくふあ島」は、観光客にとって、

「悠久の自然 と 深遠な歴史 が呼びかける いやしの島」といえましょう。

上記に含まれている言葉は、以下のような意味合いを持っています。

「ふくらしやる」：歓喜に満ち溢れ、喜ばしく、祝福されている

「てるくふあ」：島に照りそそぎ、島に恵みをもたらす太陽神

ふたつの言葉は、ともに、栗国島でうたいつがれていた「初拝（はつうがんまーぬ）」のウムイのなかに生きています。「ウムイ」と「オモロ」とは、本来同じものです。

遠い時代の先人たちの心と私たちの心を、時を超えて結ぶ言葉といえます。

「自然・ひと・暮らし ふくらしやる栗国 てるくふあ島」は第3次栗国村総合計画の基本構想のもと、10年間のむらづくりの展望として掲げています。

栗国村観光振興計画は、現実的なアクションプランとしていく必要があります。

したがって、栗国観光を先鋭化したキャッチフレーズを掲げるとともに、計画期間を定め、期間内に実現していく計画目標を明確にします。計画目標は、栗国村らしい身の丈にあった観光振興を推進していくために、3つの戦略的視点をもとに組み立てました。

視点1 地球規模で学習と余暇を結んだ活動が、大切なテーマとなっています。

カルチャーに親しむ人々にとって、栗国の自然や文化は学びの宝庫であるといえます。

視点2 栗国は、沖縄本島からは近くて遠い島です。一度は訪ねてみたい憧れの

島とイメージされています。イメージを行動へと展開させる工夫は難しくはないことを、モニターツアー（都市のカルチャーグループを迎えるツアー）が実証しました。

視点3 沖縄振興において、離島ならではの滞在交流型観光を育成していくことが

重要なテーマとなっています。栗国観光振興においても戦略としていくことが強く望まれます。

2. 栗国村観光振興計画

栗国観光のキャッチフレーズ

いのりの光 いやしの風 てるくふあ島 栗国

計画期間 平成 24 年～平成 33 年までの 10 力年計画

目標観光客数 平成 33 年に 10,000 人

計画目標

てるくふあ島で いやしと 学びと ふれあいと
～ 「ア」のくにづくり ～



2) 基本方針

以下の5つの基本方針により、計画目標である「てるくふあ島でいやしと学びとふれあいと～「ア」のくにつくり～」を果たしていくものとします。

①遊び学ぶ 《「ア」のくにつくり》～豊かな自然環境と栗国文化を体感する～

栗国観光の魅力を支える自然環境や集落景観について、村民が互いに学習しあい、その大切さを認知し、これらを守り育てる活動をおこします。そして、その魅力を活かした「遊びつつ学ぶ」体験メニューを充実していきます。

②味わい祈る 《「ア」のくにつくり》～こだわりの海の幸、大地の幸を味わう～

観光にとって、食の楽しみもまた、かけがえのないものです。野草などの自然素材や栗国の地産地消にこだわった食のメニューを豊かに提供できるよう講習会を開催したり、栗国ブランドとなる特産品の研究開発に努め、自然の恵みがもたらす食への感謝を「味わい祈る」魅力として発信します。

③会い集う 《「ア」のくにつくり》～人と人とのふれあいが感動を生み出す～

「島の主(あるじ)である住民」と「客である来訪者」が「会い集い」ふれあう交流を、栗国観光の魅力として、また、村民の生きがい活動として生み出していきます。豊かなふれあいを実現するために、栗国の魅力の語り部となる人材を育てます。

④編み結ぶ 《「ア」のくにつくり》～島外・島内とのネットワークを強める～

栗国は、沖縄本島から近い島であることをアピールする必要があります。たしかに交通面でのリスクはありますが、沖縄の玄関口であり、また中枢である那覇市と空と海で結ばれている条件を充実し、わかりやすい情報発信に努め、誘客に結んでいきます。また、ネットワークをていねいに「編み結び」ひろげて、リピーターを増やす活動に取り組みます。

⑤開け拓く 《「ア」のくにつくり》～持続的・発展的なしくみを構築する～

栗国観光の振興を牽引する要である観光協会が、安定的な運営基盤を持つための自立支援をサポートします。また、観光事業をおこしたり、観光に従事する人材を受け入れていくためのきめ細かな対策を実施していくことや、6次産業間で連携する観光の育成に「開拓」の気概をもって取り組み、栗国村振興の明るい展望に結びます。

(2) 観光振興にむけた施策

1) 施策の体系

基本方針に沿って、観光振興の施策の体系を以下に示します。

施策の体系	
1. 遊び学ぶ 《「ア」のくにづくり》～豊かな自然環境と栗国文化を体感する～	
1-1 島の魅力基盤を維持・保全する	<ul style="list-style-type: none"> ①栗国の魅力について村民が気づく機会づくり ②無秩序な土地開発の規制と望ましい方針づくり ③栗国らしい景観の保全・育成指針づくり
1-2 島の魅力を伸ばす風景づくりを進める	<ul style="list-style-type: none"> ①観光スポットや観光コース等の整備 ②村民との協働による集落風景づくり活動の促進 ③来島者も村民も共に参加して新たな風景づくり活動の促進
1-3 島の魅力を活かした体験メニューを拡充する	<ul style="list-style-type: none"> ①観光メニューの充実及び開発・研究の促進 ②定期的な来訪者の満足・不満足の内容の調査及び関係事業所等への還元 ③新たな観光メニュー創出のしくみづくり(企画・公募のしくみ)
2. 味わい析る 《「ア」のくにづくり》～こだわりの海の幸、大地の幸を味わう～	
2-1 地産地消を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ①地域生産・加工の充実及び生産組織の強化 ②島内の加工・販売の流通体制の強化 ③栗国産にこだわった「食」(海の幸、大地の幸)の促進
2-2 栗国産にこだわった「食」(海の幸、大地の幸)を調査・開発し、島内に普及する	<ul style="list-style-type: none"> ①栗国島にこだわった「食」の調査・開発 ②栗国島の食材を使った料理レシピ情報誌づくり ③栗国島の食材を使った料理講習会及びイベントの開催
2-3 特産品等の栗国ブランドを研究・開発し、島外への普及を図る	<ul style="list-style-type: none"> ①現在の特産品の強化 ②栗国ブランドとなる新たな特産品や土産品等の商品開発 ③島外への栗国ブランドの普及・啓発
3. 会い集う 《「ア」のくにづくり》～人と人とのふれあいが感動を生み出す～	
3-1 ガイドなど観光に関わる人材を確保・育成する	<ul style="list-style-type: none"> ①有償ガイドの仕組みづくり ②ガイドやインストラクターの確保・育成
3-2 地域住民との交流機会を創出する	<ul style="list-style-type: none"> ①地域特性を活かした島内外の交流イベントの開催・促進 ②ふれあい交流空間の創出
3-3 島のルールをつくる(「島の主(あるじ)である住民」と「客である来島者」との良い関係づくり)	<ul style="list-style-type: none"> ①村全体で迎えるホスピタリティ(おもてなし)の向上 ②「栗国村・旅の心得」(仮称)の作成・普及

施策の体系	
4. 編み結ぶ 《「ア」のくにづくり》～島外・島内とのネットワークを強める～	
4-1 観光関連インフォメーションを充実する	<ul style="list-style-type: none"> ①リアルタイムな島の活動等の情報発信 ②わかりやすい観光案内地図の作成やサイン整備の充実 ③ゆったり島時間等の粟国の魅力を伝える誘客活動の促進
4-2 リピーターや粟国ファンクラブを増やす	<ul style="list-style-type: none"> ①リピーターの確保 ②粟国ファンクラブづくり ③近隣市町村等との連携・協力による共同事業等の推進
4-3 交通条件の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> ①海路交通の利便性の向上 ②空路交通の利便性の向上 ③陸路交通の利便性の向上
5 開け拓く 《「ア」のくにづくり》～持続的・発展的なしくみを構築する～	
5-1 観光協会の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ①観光協会の組織強化及び事業活動の充実 ②観光協会の運営支援 ③人材バンクの創設
5-2 Uターン・Iターン等の受入条件を整備する	<ul style="list-style-type: none"> ①Uターン・Iターン等の受入条件の整備
5-3 6次産業間で連携する観光産業の育成	<ul style="list-style-type: none"> ①6次産業間で連携する観光産業の育成



2) 施策の内容

基本方針に沿って、観光振興の施策内容を以下に示します。

1. 遊び学ぶ 《「ア」のくにつくり》～豊かな自然環境と粟国文化を体感する～

1-1 島の魅力基盤を維持・保全する	
①	粟国の魅力について村民が気づく機会づくり
	子どもたちへの農業・漁業体験の充実や(仮)子ども探検倶楽部(自然観察、保護活動、方言継承等)創設により、未来を担う子どもたちの気づきを育てていく。星空教室、野鳥観察会の充実や歴史・文化・伝統をクローズアップした講座等の開催によって、村民の気づきの機会を拡充する。
②	無秩序な土地開発の規制と望ましい方針づくり
	粟国村農業振興地域整備計画において農業振興地域を定め、土地開発の乱発を防ぎつつ、環境保護・鳥獣保護等の条例づくりや望ましい土地利用の計画づくりにも取り組む。
③	粟国らしい景観の保全・育成指針づくり
	景観計画の策定に取り組み、粟国らしい景観の保全や創出を図っていく。
1-2 島の魅力を伸ばす風景づくりを進める	
①	観光スポットや観光コース等の整備
	自生する植物(テッポウユリ)等の魅力スポットやヤマトウゲ等の観光ポイントへのコース整備、ボジャー遊歩道の再整備や集落内散策コースのメニューづくりに取り組む。
②	村民との協働による集落風景づくり活動の促進
	道路沿いの草花による美化活動やあたいぐわーづくりを推進し、フクギ並木や石積(石垣)、古民家の保全・修復・修景の支援をおこなうなど、心のなごむ風景づくりに取り組む。
③	来島者も村民も共に参加して新たな風景づくり活動の促進
	遊休農地を活用した見所づくり(ひまわり畑・ロード等の創出)やソテツ山の再生、記念植樹(15の旅立ちの子どもたちや結婚記念等)による観光地の緑地づくりに取り組む。
1-3 島の魅力を活かした体験メニューを拡充する	
①	観光メニューの充実及び開発・研究の促進
	火山の歴史や海を活かした観光メニュー(海で拾った貝等によるクラフト体験、引き網漁等の漁業体験、島一周の遊覧船ツアー等)や農畜産業を活かした体験メニュー(さとうきび収穫等)、星空観察(都市部にはない夜の真っ暗体験等)、祭りやむんじゅるを活かした観光イベントなど、粟国の魅力をアピールするメニューを数多くつくりだしていく。
②	定期的な来訪者の満足・不満足の内容の調査及び関係事業所等への還元
	定期的な来訪者アンケート調査の実施により、事業者等に情報を還元し、有効な改善策等の取り組みに役立てる。
③	新たな観光メニュー創出のしくみづくり(企画・公募のしくみ)
	島内外から粟国観光のプログラムのアイデアを広く公募する「島旅企画コンペ(仮称)」を実施し、事業計画等の反映に努める。

2. 味わい祈る 《「ア」のくにづくり》～こだわりの海の幸、大地の幸を味わう～

2-1 地産地消を推進する	
①地域生産・加工の充実及び生産組織の強化	漁業組合の強化や漁家の後継者育成等、漁業の経営安定化に努め、水産物の生産を促進する。島の農産物(もちきび、島らっきょう、玉ねぎ、かぼちゃ等)の生産を促進し、農産品加工(粉末化)技術の向上と加工食品の研究・開発を促進する。
②島内の加工・販売の流通体制の強化	粟国の地産地消にこだわり、原材料供給体制や加工体制を整える取り組みを支援する。また、民宿・食堂、販売所等に粟国産の食材や加工食材等を調達できるよう、島内で流通するしくみを強化する。
③粟国産にこだわった「食」(海の幸、大地の幸)の促進	民宿・食堂等が粟国産のもちきび、野草、ゆし豆腐等の食材を積極的に利用した料理メニューを提供するよう、粟国産にこだわった「食」(海の幸、大地の幸)の普及を促進する。
2-2 粟国産にこだわった「食」(海の幸、大地の幸)を調査・開発し、島内に普及する	
①粟国島にこだわった「食」の調査・開発	島の野草に関する調査(島の野草に詳しい方への聞き取り等)を行うとともに、野草等の地元食材を使った伝統料理やそれを現代風にアレンジした料理等、粟国産にこだわった食のメニューを研究・開発する。
②粟国島の食材を使った料理レシピ情報誌づくり	民宿・食堂等が粟国産の食材を積極的に利用できるよう、上記の調査・研究で得られた情報等を料理レシピの情報誌として作成・配布する。
③粟国島の食材を使った料理講習会及びイベントの開催	粟国の地産地消にこだわった食のメニューを豊かに提供できるよう、民宿・食堂等を対象に、御膳の復活や野草料理等の料理講習会を実施する。また、「食」の魅力を伝えるようなイベント(「海の幸」、「大地の幸」料理コンテスト等)の開催を検討し、食のメニューの拡充を図る。
2-3 特産品等の粟国ブランドを研究・開発し、島外への普及を図る	
①現在の特産品の強化	現在の特産品(ソテツみそ、黒糖、粟国の塩、もちきびかりんとう等)を充実し、特産品として販売を促進する。また、観光メニューへの活用や料理食の活用も検討する。
②粟国ブランドとなる新たな特産品や土産品等の商品開発	島の自然資源や農畜水産物等を原料とした付加価値の高い特産品や土産品等の新たな商品開発(粟国の泡盛、島の素材や手わざを活かした工芸品等)を推進する。
③島外への粟国ブランドの普及・啓発	島外で開催される沖縄の産業まつり、離島フェア、アイランダー等のイベントに参加し、粟国ブランド(特産品等)を普及・啓発する。また、インターネット市場の共同展示や出身者のネットワークを活用した販路拡大に取り組むなど、島外に流通する仕組みづくりを支援する。

3. 会い集う 《「ア」のくにづくり》～人と人とのふれあいが感動を生み出す～

<p>3-1 ガイドなど観光に関わる人材を確保・育成する</p>
<p>①有償ガイドの仕組みづくり</p> <p>村民の観光への意識向上を図りつつ、栗国の歴史文化、自然環境、産業、郷土料理、特産品等、栗国の魅力を伝えること等ができる人材から、体験メニュー等をサポートするノウハウを有する人材を登録し、そのサービスを有償で提供できる仕組みの構築を観光協会等の協働により取り組む。</p>
<p>②ガイドやインストラクターの確保・育成</p> <p>村民の観光への意識向上を図りつつ、観光に関わる人材を確保するとともに、観光ガイドやインストラクターの育成を行い、観光に関わる名物ガイド等の人材の充実を図る。また、観光活動の先進事例の研修等により、観光の質の向上を図る。</p>
<p>3-2 地域住民との交流機会を創出する</p>
<p>①地域特性を活かした島内外の交流イベントの開催・促進</p> <p>栗国島への誘客を促すため、子ども三線、書道・俳句等による文化イベントの開催、バドミントン、ノルディックウォーキング、パークゴルフ等のスポーツ大会の開催、参加プログラムのある祭り・イベント(むんじゅる節コンテスト等)の企画・実施等、栗国の魅力や地域住民の生きがいを生み出す交流イベントの開催・促進に取り組む。また、県内小学生を対象とした修学旅行やセカンドスクールの誘致に努める。</p>
<p>②ふれあい交流空間の創出</p> <p>来訪者と地域住民の「ふれあいの場」を創出するため、交流カフェ等の創出、パークゴルフ場整備の推進、マハナー帯の自然保護と活用(メモリアルパーク構想(仮称)の検討)等に努める。</p>
<p>3-3 島のルールをつくる(「島の主(あるじ)である住民」と「客である来島者」との良好な関係づくり)</p>
<p>①村全体で迎えるホスピタリティ(おもてなし)の向上</p> <p>来訪者を受け入れる村民一人ひとりのおもてなしの質を高めるため、あいさつ運動の充実、美化活動・清掃活動の充実を促進する。また、直接的に接することが多い観光関係者(観光協会、民宿・食堂等)をはじめ、商店や交通関係者等に対しては、接客接遇マナーを学ぶ研修会等を支援し、接客接遇力の向上に努める。</p>
<p>②「栗国村・旅の心得」(仮称)の作成・普及</p> <p>来訪者が旅を楽しみ、村民が来訪者を快く受け入れるためのルールや来島の心得を、村民意向を反映して作成し、その情報を配布・普及する。</p>

4. 編み結ぶ 《「ア」のくにづくり》～島外・島内とのネットワークを強める～

4-1 観光関連インフォメーションを充実する	
①リアルタイムな島の活動等の情報発信	村HPや観光協会HPの充実とfacebookを活用した情報発信に取り組む。また、防災無線システムを活用して観光客の来島スケジュールや就航状況等の情報発信を充実させる。
②わかりやすい観光案内地図の作成やサイン整備の充実	公的施設や主な観光ポイントをはじめ、売店・食堂・民宿、休憩所・トイレ等、1つの地図で散策等ができる観光案内地図の作成をはじめ、支柱サインや路面サイン等、外国人にもわかりやすいサイン整備を図る。
③ゆったり島時間等の粟国の魅力を伝える誘客活動の促進	沖縄本島・都市部の生涯学習団体等への誘客活動をはじめ、粟国アンテナショップづくりや本土旅行業社へのキャラバン活動を促進する。
4-2 リピーターや粟国ファンクラブを増やす	
①リピーターの確保	定期的な来訪者アンケート調査（満足度）等の結果を活かして来訪者のニーズに応える取組みを充実させることや、参加・体験型観光メニュー（自然、歴史・文化、地元との交流等）等の改善・充実等により、リピーター確保に結ぶ。
②粟国ファンクラブづくり	モデルツアーの実施機会を活かしたり、ITを活用したよびかけ情報の発信により、ファンクラブづくりに取り組む。また、郷友会や全国沖縄県人会のネットワークを活用して、幅広くよびかけて情報を発信していく。
③近隣市町村等との連携・協力による共同事業等の推進	国・県や那覇・南部広域、周辺離島町村等の広域で取り組む共同事業等に協力・参画し、来島者の拡大に結んでいく。周辺離島町村による離島クルージングの検討や那覇等の拠点（那覇空港やとまりん等）における情報の充実（那覇観光パンフレットのアクセス情報の掲載協力）など、きめ細かな取組みを実施する。
4-3 交通条件の向上を図る	
①海路交通の利便性の向上	乗船客データの集計・分析を定期的実施する。また、フェリー内の観光情報（ポスター・パンフレット、船内放送・放映等）の充実、島外からのフェリー運賃割引等の検討、リアルタイムな運航予定及び状況の情報発信（村役場や観光協会のHP等とのリンク）等により、海路交通の利便性の向上を図る。
②空路交通の利便性の向上	粟国空港の拡張整備の推進に取り組んでいながら、増便などによる利用枠の拡大やリアルタイムな運航予定及び状況の情報発信（村役場や観光協会HP等とのリンク）等により、空路交通の利便性の向上を促進する。
③陸路交通の利便性の向上	必要に応じた集落内外の道路整備を推進するとともに、乗合バスの導入やゆったり島時間を満喫できる移動手段（ポニー等を利用した島内移動）の検討など、島内の活動を豊かにできる交通条件の向上に取り組む。

5. 開け拓く《「ア」のくにづくり》～持続的・発展的なしくみを構築する～

5-1 観光協会の充実を図る

①観光協会の組織強化及び事業活動の充実

村内外のネットワークづくりを拡充しながら、村内在住者の若者の育成や村外からのコーディネーター等の人材活用等を検討し、観光協会スタッフの確保を促進する。また、関係機関等との連絡調整の充実を促進する。さらに、観光客受入・案内サービスや観光プロモーション活動等、観光協会の事業活動の充実を促進する。

②観光協会の運営支援

観光協会が安定的な自主運営ができるように支援する。また、収益事業の拡充(観光協会会員の増強、観光関連施設等の運営、協賛事業の展開、入島協力金の導入検討等)を促進する。

③人材バンクの創設

主婦や高齢者等が空き時間にガイドやインストラクターを行い、収入増に繋がるようなネットワークづくりを促進する。

5-2 Uターン・Iターン等の受入条件を整備する

①Uターン・Iターン等の受入条件の整備

観光に従事する人材を受け入れるため、有効な行政支援の検討・実施(家賃などの助成制度の設置、相談窓口の設置)や空き家・村営住宅の活用に取り組む。

5-3 6次産業間で連携する観光産業の育成

①6次産業間で連携する観光産業の育成

釣り・ダイビング等の遊漁船や農家による副業の育成等、農業・漁業の体験交流活動(グリーンツーリズム、ブルーツーリズム)の展開を目指した観光産業の育成に取り組む。また、粟国出身者の特性を活かしたサービス業(飲食店、宿泊等)の創出や宿泊機能の拡充のため、農家と連携した農家民泊や伝統的な空き家家屋の活用等に取り組む。

